第６回山ノ内町立学校づくり準備委員会　次第

日　時　令和７年１０月２８日（火）
　　午後５時３０分～午後７時３０分
場　所　よませふれあいセンター　軽運動室

１．開　　会

２．委員長あいさつ

３．報告事項
（１）前回委員会の会議結果について

（２）まちづくりこども委員会の会議結果について

４．会議事項
（１）先進地視察の結果について

（２）統合学校の開校に向けたコンセプトについて（※グループ討議）
〈テーマ〉「最高の居場所をより具体的にイメージする」

５．その他
①学校づくりシンポジウムについて

６．閉　　会

山ノ内町立学校づくり準備委員会10月ワークショップ名簿

	所属等	氏　名	グループ
1	南小学校長	中村まゆみ	A
2	東小学校ＰＴＡ	南條信太郎	
3	西小学校ＰＴＡ	渡邉　　充	
4	志賀高原保育園保護者会	佐藤　穂積	
5	子ども会育成会連絡協議会長	下田　敏雄	
6	里山ようちえん　おやまのおうち	山崎　龍平	
7	オブザーバー（専門部会委員）	畔上　恵子	
1	西小学校長	竹内　由紀	B
2	南小学校ＰＴＡ	平原　　剛	
3	山ノ内中学校ＰＴＡ	小湊　崇法	
4	かえで保育園保護者会	大硲　若菜	
5	議会社会文教常任委員会委員長	髙田　佳久	
6	公募委員	新井　彩香	
7	オブザーバー（専門部会委員）	金井　　学	
1	山ノ内中学校長	山口　　近	C
2	ほなみ保育園保護者会	山戸真理子	
3	すがかわ保育園保護者会	丸山恵美子	
4	区長会	山崎　　昭	
5	社会教育委員	羽田　吉彦	
6	公募委員	杉戸　香奈	
7	オブザーバー（専門部会委員）	瀬川　夏実	
1	東小学校長	北垣内　博	D
2	よませ保育園保護者会	小淵　正成	
3	園長会（志賀高原保育園長）	岩本　　光	
4	ＩＣＴ教育コーディネーター	清水　　智	
5	学識経験者（学校長経験者）	原　　隆文	
6	主任児童委員	佐藤　重子	
7	オブザーバー（専門部会委員）	望月和佳奈	

事務局	教育長	竹内　延彦	D
	教育次長	望月　弘樹	A
	こども未来課学校統合準備係長	山本　敏幸	B
	こども未来課学校統合準備係	畔上　俊樹	C
	こども未来課学校統合準備係	菅原　勇介	

資　料　1

山ノ内町立学校づくり準備委員会　会議結果報告書

会 議 名	第５回　山ノ内町立学校づくり準備委員会	
日　　時	令和７年９月２６日（金）　午後５時３０分～午後７時３０分	
会　　場	山ノ内町文化センター　３階　ホール	
出席・傍聴人数	出席　１９人　／　欠席　１０人	傍聴者　６人
会議内容	【報告事項】 (1)前回委員会の会議結果について（資料１） (2)まちづくりこども委員会の会議結果について（資料２） (3)インスタグラム開設について（資料３） 【会議事項】 (1)統合学校の開校に向けたコンセプトについて ＜テーマ＞安心していられる場所・空間『グループ討議』（資料４） ３グループに分かれ、テーマ①では過去の委員会で印象に残っている話や大事だと思った点について意見を出し合い、テーマ②ではこどもたちが安心していられる場所と思うところを付箋に書き模造紙に貼り、同じ施設・空間となる括りごとにまとめた。その後ワールドカフェ方式により、他のグループの模造紙を見てきた委員から共有されたアイデアなどの意見交換を行い、新しい学校に必要と思われる場所や空間について共有を図った。 【その他】 ・10 月 1 日の先進地視察について ・学校づくりにかかるシンポジウムについて ・参考資料第 4 次長野県教育振興基本計画コンセプトブック「未来をつくる学びでつくる」の配布について	
決定事項等	・第６回学校づくり準備委員会 10 月 28 日(火)17:30～よませふれあいセンター ・学校づくりにかかるシンポジウムを 11 月 16 日（日）に開催	
会議概要及び質問・意見等	**【グループ討議まとめ】** **テーマ①：過去の委員会で印象に残っている話や大事だと思った点について** **1. 理想の実現に向けた課題認識** 前回の準備委員会の講演で示されたフリースクールのような先進的な教育実践には学ぶ点が多いと感じた一方で、それを地域や時代に合わせて実現するには、人手や財源といった現実的な課題と限界を乗り越える必要がある。 **2. 地域と大人の意識変革の必要性** 新しい学校づくりを成功させるには、こどもだけでなく、地域住民、特に大人の側の意識改革が不可欠である。新しい価値観への変化はこどもより大人の方が難しく、教育に関心が低い人たちを含む価値観のアップデートが必要である。 **3. 持続可能なコミュニティと地域統合** 学校と地域が連携・協働するコミュニティ・スクールについて、ボランティアに頼るのではなく、大人が継続的に参加できる仕組みを検討する必要性がある。 学校統合に伴い、これまでの学区ごとの意識を排し山ノ内町全体で一つという新しい地域意識を醸成し、学校と地域が一体となって融合していくことが重要である。	

会議概要及び質問・意見等	テーマ②：こどもたちが安心していられる場所について 1. リラックス・リフレッシュ・一人になれる場所 ・**一人になれる場所**：狭くて落ち着く場所、静かに読書できる場所、ゴロゴロできる空間、隠れる場所。 ・**リラックス設備**： 足湯（地域の人も使える）、サウナルーム、リラクゼーションルーム。 ・**場所の工夫**：図書室の本棚と本棚の間、外のベンチ、三角の隅。 2. 体を動かす・発散・遊びの空間 ・**運動・遊び**： 天候に関係なく遊べる屋内遊技場/運動室、様々なパターンで遊べる・運動できる場所。 ・**発散場所**： 大声を出せる場所（気持ちを整理できない子のため）、バンドやカラオケができる場所。 ・**体育館**：冷暖房付き（災害時の避難所機能も考慮）、床が柔らかい素材。 3. 多様な学び・創造・交流の空間 ・**メディア・情報発信**： メディアラウンジ/シアター、大画面で発表ができる場所、プロジェクションマッピングで世界旅行ができる部屋。 ・**交流・集いの場**：生活交流空間（自由空間）、カフェ、売店/コンビニ、友達と自由に話せる場所。 ・**オープンスペース**：隔たりがない、壁の開閉で広さを変えられる、廊下を無くしスペースを削減。 ・**地域連携**：地域の人も使える施設、地域交流のための場所。 4. 環境・生き物との触れ合い ・**動物・生物**：動物棟、アニマルセラピー、犬や猫などの動物と交流・触れ合える仕組み、水族館、魚釣り。 ・**天体**：屋上活用（景色・星空観察）、プラネタリウム、天体望遠鏡。 5. 運営・その他 ・**職員の場所**：職員休憩室、マザーズルーム（先生が休める部屋）。 ・**「教室」の概念**： 教室という項目がなかったグループが多い一方で、時と場合によって仕切り（壁）が必要。 〇全体的なまとめ 今後の整備基本方針案作成に向けて、新しい学校の方向性について以下の 4 点にまとめた。 1. こども一人ひとりが自らの興味関心をワクワクしながら深めることができる学びができる場を作る。 2. 多様な人々の繋がりが生みやすい施設。 3. こどもや大人が挑戦したくなる、また挑戦を支えることができる施設。 4. 誰もが安心できる多様なタイプの居場所や学びがある施設。

第5回山ノ内町立学校づくり準備委員会 議論の総括：最高（安心）の居場所を空間で描く　グループワークのまとめ

1．こどもの多様な願いと活動を支える「ウェルビーイング空間」の創出

この新しい学校では、こどもたちが心身ともに安心して過ごせること、そして探究心や創造性を自由に発揮できることを目的とした多様な居場所を確保したい。従来の「教室」という枠を超え、学び・生活・遊びが融合した空間を目指す。

- **リラックス・プライベート空間の充実:**
  - ゴロゴロできる空間、こたつ、お昼寝ができる部屋など、心身を休ませるための生活交流空間を設ける。
  - 一人になれる場所（狭くて落ち着く）や、図書室の本棚の間などの隠れる場所を意図的に設け、プライバシーと集中を確保する。
  - 温泉・足湯のアイデアは、地域連携を視野に入れたリフレッシュの象徴とする。
- **探究・創造・発信の場の確保:**
  - メディアラウンジや大型スクリーンを設置し、パソコンを活用した調べ学習、映像制作、発表を自由に行える環境とする。
  - ストリートピアノ、バンド・カラオケができる場所、工作ができる場所を設け、表現活動や創造的な活動を奨励する。
  - 漫画やテレビゲームができる場所など、子どもの関心に応じた娯楽の場も必要とする。
- **身体活動と感情の発散:**
  - 天候に左右されない屋内遊技場/運動室または、室内プールを確保し、日常的に体を動かせるようにする。
  - 大声を出せたり、誰からも叱られない場所を設けたりすることで、感情を安全に発散・整理できる環境を作る。
- **生活・自然体験・交流の創出:**
  - ランチルームや生活交流空間を、家のような自由な雰囲気の中で交流が生まれる場として整備する。
  - 動植物飼育/育成室や、自然豊かな場所（虫取りや魚釣り）の活用を通じて、命や自然に触れる機会を創出する。

2．「開放性」と「柔軟性」を核とする建築構造

固定的な「教室」の概念から脱却し、壁で仕切られた空間ではない、可変的でつながりのある空間を志向する。

- **空間の連続性:**
  - 「廊下いらない」という意見に見られるように、廊下を削減し、部屋をマットで開け放つなど、空間の開放性と柔軟な利用を重視する。
  - 長方形・直方体ではない、地域や異学年と接しやすい構造を採用する。
- **可変性と選択性**
  - 壁を動かせる、仕切りを調整できる構造を取り入れ、時と場合に応じて最適な学びの形を選択できる「オープンな学びの場」とする。
  - 特定な部屋ではなく、要素が混ざり合い隔たりのないコーナー的な空間を随所に活用する。
- **ただし、集中も考慮**
  - 低学年の学習や集中が必要な活動のためには、仕切り（壁）が必要な場合もあるとし、時と場合に応じた使い分けの重要性を確認する。

---

3. 地域と一体となる「拠点」機能と外構の活用

学校をこどもたちだけの場所とせず、交流の拠点としての役割を持たせる。山ノ内町の特性を活かした屋外・屋上の活用を重視する。

- **屋外・屋上活用:**
  - 景色を活かした屋上を、遠望やお泊り会での星空観察など、安全面に配慮したうえで積極的に活用する。
  - 中庭や外構には、固定遊具・移動遊具やボール遊びができる場所など、様々な遊具を充実させる。
- **地域連携・交流:**
  - 冷暖房付き体育館を整備し災害時の避難所機能と、地域住民の利用（昼間以外など）を可能にする。
  - 地域交流ルームやランチルーム、カフェの開設を検討し、地域住民との日常的な交流を促す。

---

4. 教職員のための心理的・機能的サポート空間

こどもたちの安心を支える大人たちが、心身をリフレッシュし、効果的に働ける環境を整備する。

- **休憩とリフレッシュ:**
  - 職員休憩室やマザーズルーム（ソファーや冷蔵庫がある部屋）を設け、職員がリラックスできる場所を確保する。
  - 教職員が心理的なサポートを受けられる相談体制の必要性も確認する。
- **機能と連携:**
  - 職員休憩室と体育館が繋がっている構造など、緊急時にも対応できる配置を考慮する。

新しい学校が目指す「最高の居場所」とは、こどもたちが心身ともに安心して過ごせる空間という認識が共通認識となってきている。従来の教室という枠をとりはらい可変的で開放的な学習空間や、廊下を無くしたリビングのような交流スペースがイメージされてきている。これにより、こどもたちは集中したい時も、一人になりたい時も、居場所を自分で選べるような形が望まれる。メディアラウンジのような、こどもたちが学びたいときに様々な方法で学ぶことができる環境の整備が望まれる。 また、「最高の居場所」には、町の景色を生かした活動や、動物や植物との触れ合いのような体験的な場も含まれる。体育館は地域の避難所としての機能を果たす役割が期待される。さらに学校全体が、地域連携ルーム等の共用空間を拠点に、先生も含めた皆が元気になる、地域とともにある学びと交流の拠点として構想することが委員の共通認識となってきている。

今後の議論の例

今回の「最高（安心）の居場所を空間で描く」をテーマとした議論では、従来の学校の枠を超えた豊かなアイデアが多数集まった。「一人になれる場所」、「壁のない柔軟な空間」、「屋上や自然を活用した体験の場」など、こどもたちの多様な願いを実現する新しい学校の施設整備のイメージが見えてきた。

これらのアイデアを現実の施設として実現するためには、夢を具体的な形へと落とし込むプロセスが望まれる。

設計図面がまだない今、単なる要望リストに留めず、「どうすれば実現できるか」課題解決型の議論が望まれる。

10月28日　学校づくり準備委員会

資料3

テーマ「最高の居場所をより具体的にイメージする」

視察の共有

10月1日の視察の様子を短時間で紹介します

視察の共有　佐久穂町こどもセンターさくほっこ

〇廃校の後利用

・2014年廃校、2015年利用開始
・改修費用：8800万円　スタッフ23名
・校庭の半分を舗装し、駐車場に改修

写真部分は非公開

〇複数の機能　赤字は民間　青字は町

・児童館（放課後の居場所）
・児童クラブ（放課後の居場所）
・子育て支援センター
・中間教室（学校施設）＝間借り
・保健センター（検診機能）
・体育館（公民館）

入退室はアプリで管理され、
こどもがいつ入室し、
いつ退室したか親に通知される。

〇特徴

・改修は最小限
・子育て支援センター部分は大幅改築
・放課後の居場所は登録制で学校から徒歩5分でくる（～17：00児童館機能）
・小海町と協定を結び利用者の交流

センター長さんの話

子育て支援センター～児童館・クラブ、学校施設まで複合化されることで、妊娠期から学童期までの育ちをスタッフが見られます。

学校と物理的に近いこともこの施設では大きいです。

視察の共有　上田市立北小学校

※写真は7月の訪問時のもの、
以前の学校運営委員会のものもあります。

〇学校の特徴

・地域連携の柱がクラブ活動
・敷地面積が広く、敷地内に木が多い
・1学年3クラス規模

写真部分は非公開

〇北小のクラブ活動

・10年以上前から地域住民が講師となって実施している。
・毎年15～20のクラブが開講（職員はかけもち）
・講師は5月に4～6年生の前でプレゼンを実施し、その日に児童に参加クラブ調査。
・希望者がいないクラブは廃部（そのための人数調整はしない。）
・1回90分で年間で8回実施。
・公開参観日ではクラブ活動を公開し、保護者や地域への理解を広げている。
・コミュニティスクール運営委員会で前年のうちから次年度の方向を検討している。
（学校のクラブ担当職員と地域COが中心）

視察はクラブ活動の場面でしたが、この活動の裏には会議（こどもと大人の対話、こどものやりたいことと大人がやりたいことを重ねるは話し合い）があります。

左の写真は昨年度のCS運営委員会です。

視察の共有　門川大作氏の講演

- 「参観」から「参画」へ: 学校と地域・親との関係を「批判し合う関係」から「貸し合い、高め合う関係」へと変革。従来の「参観」（授業参観など）から、学校運営への参加を意味する「参画」へと転換させた。
- 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の推進: 親や地域住民が学校運営に参画する「京都方式」を確立。
- こどもの見守り活動: 事件を機に、地域全体でこどもを守る「こどもの見守り隊」の活動を強化し、継続させている。
- 文化を教育の力に: 宿泊税を活用し、全ての小学校での茶道体験、中学校での華道体験を実現するなど、京都の伝統文化を教育に取り込んだ。
- 平和の原動力: 真の平和とは「実質的な意味のある考えの交流」であり、その原動力は文化と観光にある。
- SDGsと利他の心: 日本人が大事にしてきた「利他の心」を世界に広める。

- **「教育とは希望であり、未来の仕事である。夢とロマンであります」**

視察をふりかえる

対話第1ラウンド

グループで話してみよう

① 佐久穂町こどもセンター「さくほっこ」で感じたことや今後いかせること

② 上田市立北小学校で感じたことや今後いかせること

視察を振り返る

共　有

グループ内の意見のいくつかを紹介してください。
（1グループ　2分以内）

対話　第2ラウンド

最高の居場所をより具体的にイメージする

前回委員会のまとめ①

【子どものウェルビーイング空間】

1. 心身の安心とリフレッシュ

* 「個の居場所」の確保：一人になれる場所、隠れる場所、お昼寝やこたつがあるリラックス空間。

* 情緒の発散と整理：大声を出せる場所や、誰からも叱られない場所を設ける。

* 生活との融合：ランチルーム、温泉・足湯のアイデアなど、学校を生活空間に近づける。

2. 探究・創造・身体活動の場

* 自由な学び：メディアラウンジやストリートピアノなど、多様な方法で学べる環境。

* 娯楽と体験：漫画やゲーム、動植物との触れ合いの場。

前回委員会のまとめ②

【建築構造・地域・教職員】

3.「柔軟性」と「つながり」のある建築構造

*オープンな学び：壁を動かせる構造を採用し、「廊下いらない」に代表される開放的な空間を志向。

*居場所の多様化：部屋ではなく、要素が混ざり合ったコーナー的な空間を随所に活用する。

4. 地域とともにある拠点機能

* 外構の積極活用：屋上（星空観察）や中庭、自然豊かな場所（虫取り・魚釣り）を活用する。
* 交流と防災：冷暖房付き体育館の整備、ESD/地域連携ルームの開設など、地域に開かれた機能を担う。

5. 教職員のサポート空間

* リフレッシュ：職員休憩室やマザーズルームを設け、心理的な安心を確保する。
* 機能連携：緊急時を想定した職員休憩室と体育館の接続などを考慮する。

グループワーク2 ロジックフラワー の進め方

1 前回作成した模造紙を見返す。

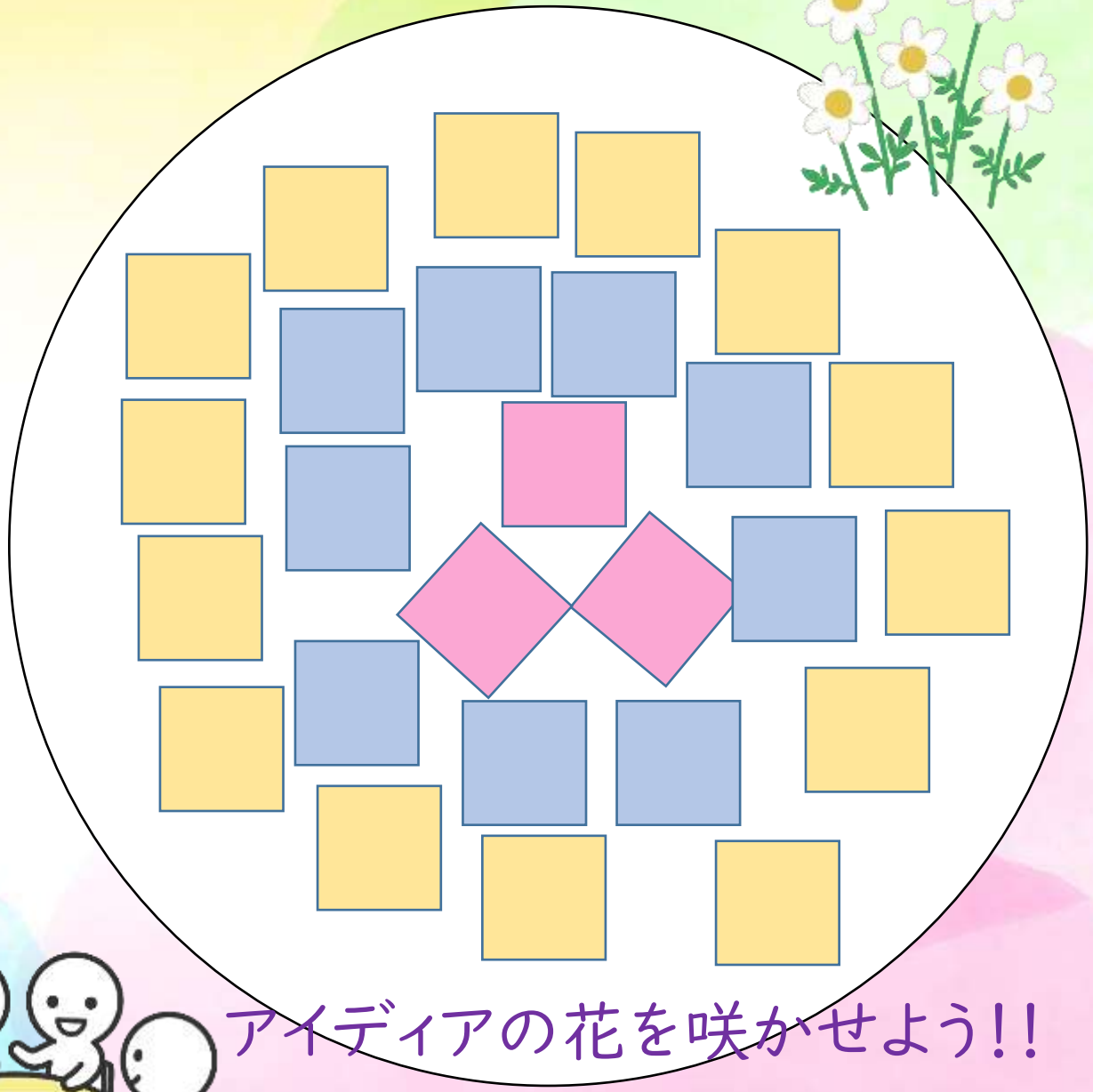
2 前回の意見も参考にしながら、グループの中で相談をしながら、ぜひ実現したいことを、赤い付箋に3つかく。

3 中央に貼ったものについて、実現しようとしたときに現状も踏まえ課題になることや、現在あるすでに資源を青い付箋に思いつくままにしゃべりながら書いて貼る。
※課題は、人的環境、物的環境、社会的環境などで考えます。

4 青い付箋の内容について質問などもしながら紹介する。

5 黄色い付箋に、青付箋にかかれたことを解決したり赤い付箋に書かれていることを実現するために必要だと思う取り組みをかく。

6 黄色い付箋の内容について質問などもしながら紹介する。



アイディアの花を咲かせよう!!

共有の仕方

クロストークセッション（Aグループからスタート）

1　作成した模造紙を壁にはる。全員がAグループ前に移動

2　Aグループは3分で内容をプレゼンする。

内容は　実現したい3つ　特に課題となったこと

特に重要となる解決策や取り組み

3　聞き手は質問や感想をいう。　これを繰り返す